

平成23年度
(平成22年度分)

事務事業評価票

C 定型・維持管理型 No. 1004003

I 事業の概要

通常評価

I-1 事業の概要

事務事業名 ホーム・サービス	クリーンセンター焼却炉等施設改修 http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/soshiki/5-4-2-0-0_5.html	所管局部課等	環境政策局適正処理施設部施設整備課
		(連絡先)	212-8500
		(評価票作成者)	施設整備課長 森田 弘之

22決算額 (千円)	23予算額 (千円)	今後の方向性		24予算額 (千円)	事務事業の内容	
477,516	197,821	現状のまま継続		198,600	保守管理による点検整備で、機器の機能を安定的に維持するとともに、消耗品の取替や部分補修等により、耐用の延長を図るように努めているが、補修や軽微な整備等では機器の回復が不可能と判断される場合には、改修工事を実施し、必要な機器を更新する。	
業務運営方法	■ 直営		委託(補助)先の名称、委託(補助)の内容			
	□ 部分委託					
	□ 部分補助等					
	□ 全部委託					
	□ 全部補助等					
実施根拠 (法令、条例、規則、要綱等)	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、電気事業法、労働安全衛生法等			事務事業の性格	■ 義務的事業 □ 任意的事業	
				会計区分	■ 一般会計 □ 特別会計	

I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算	H23年度予算	H24年度予算
	①	事業費 (千円)	617,306	436,926	477,516	197,821	198,600
		工事請負費	617,306	436,926	477,516	197,821	198,600
	①'	委託料					
	②	委託料が事業費に占める割合 (①' ÷ ①) (%)					
	③	人件費 (24年度は見込) (千円)	11,800	11,647	15,424	15,424	15,261
		職員(課長級) (人)	0.10	0.10	0.21	0.21	0.18
		職員(課長補佐級、係長級) (人)	0.20	0.20	0.28	0.28	0.41
		職員(係員) (人)	1.00	1.00	1.24	1.24	1.10
		嘱託職員等人件費 (千円)					
	④	年間経費 (①+③) (千円)	629,106	448,573	492,940	213,245	213,861
	⑤	特定財源 (市税等の一般財源以外) (千円)					198,000
		国庫・府支出金 (千円)					
		受益者負担分(使用料、手数料等) (千円)					
		その他 (市債) (千円)					198,000
	⑥	京都市年間負担経費 (④-⑤) (千円)	629,106	448,573	492,940	213,245	15,861
	⑦	受益者負担率 (受益者負担分÷④) (%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

平成23年度
(平成22年度分)

Ⅱ 評価結果

事業名 クリーンセンター焼却炉等施設改修

Ⅱ-2 業績評価（Ⅱ-1 市民と行政の役割分担評価は「通常評価」のため省略）

A 効率性	No.	区 分	単位	H20年度	H21年度	H 2 2 年度	
	①	改修施設数		施設	3	2	3
	②	年間経費（事業費及び人件費の合計額）		千円	629,106	448,573	492,940
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）		円/単位	209,701,877	224,286,288	164,313,234
	④	単位当たり経費変動率				+7.0%	-26.7%
					評価	悪くなった	かなり良くなった
分 析	（コスト変動の理由等）						
	平成 2 1 年度と比べ、平成 2 2 年度の活動実績が増加したため効率性が良くなった。 焼却炉等施設改修については、各施設の状況に応じ、改修施設数、改修範囲及び整備費用等が異なり、必ずしも改修施設数と経費が連動しないため、効率性の評価は困難である。なお、他の指標への変更も検討したが、個々の施設の状況により、改修施設数や改修範囲が大きく変動するため、各年度でより効率性の評価に適した経費と連動する指標の設定は困難であった。						
B 市民満足度	<調査の有無>		<調査方法>		<調査時期>		
	□ 有 □ 無 ■ 該当しない						
	(調査結果、現状分析等)						
C 環境保全 及び環境負荷軽減の要素	■ 環境		<現状分析、今後の方針等>				
	□ 関連		クリーンセンターから排出されるダイオキシン類等の有害物質を出来る限り低減させる等、周辺環境の保全に配慮した管理・運営を行う。同時に、発生するエネルギーを有効利用することにより、環境負荷の軽減に努める。				
	□ 一般						

平成23年度の実施状況 整備対象については、緊急性及び重要度の高い箇所を厳選し、経費の効率的な執行に努めている。

Ⅲ 今後の方向性

現状のまま継続	(今後の方向性の理由及び具体的な内容)
	機器の経年劣化に対して、必要な整備を的確に実施することにより、施設の性能を維持し、経費節減にもつなげる。